

みなとが変わると日本が変わる～21世紀の活力はみなとから～

港湾空港ニュース香川

—高松港湾・空港整備事務所だより—

2015
10
月号

<No.188>

CONTENTS

- 「美讃」一般公開
- 朝日地区航路浚渫工事
- 出前講座(高松市立牟礼南小学校、坂出市立加茂小学校)
- インターシップを終えて
- 備讃瀬戸北航路浚渫工事
- そのほかお知らせ



国土交通省 四国地方整備局
高松港湾・空港整備事務所



平成27年8月13日 高松まつり花火と「飛鳥II」高松港入港

有名フレーズご存じですか？

(外国人から見た日本の港湾・空港)

「これは川ではない。滝だ」これは、明治政府のお雇い外国人だったオランダ人のヨハネス・デ・レーケが、日本の川を見た際、その流れの激しさに驚いて発言したものと言われています(諸説あり)。このフレーズは、河川技術者に限らず、社会資本整備に携わる方であればご存じかと思えます。

また、道路分野では、「日本の道路は信じ難い程悪い。工業国にしてこれ程完全にその道路網を無視してきた国は日本の他にない」という有名なフレーズがあります。これは、約60年前の昭和31年に、ラルフ・J・ワトキンス率いる米国の調査団が、日本の建設省(当時)に提出した報告書(通称「ワトキンスレポート」)の冒頭の一文です。これら2つのフレーズは、現在でも各種文献や講演会等で頻りに引用されています。その背景には、厳しい諸条件を克服して、河川整備や道路整備を進めてきた先人達への畏敬の念と、そして自分たちが、その後継

者として次世代のために社会資本整備を進めていくのだという矜持があるように思えます。

翻って、港湾と空港の分野では如何でしょうか。私が港湾と空港の業務が初めてだからかもしれませんが、外国の方から指摘された有名なフレーズは、寡聞にして存じておりません。強いて言えば、「成田をはじめ国際空港が、都心から遠い」という声ですが、冒頭

でご紹介したフレーズとは若干趣旨が異なります。港湾と空港整備に携わるものが、勇気と誇りを持てるようなフレーズをご存じであれば、当事務所までご連絡いただければ幸いです。

また、インターネット上で検索してみると、中国人の方が瀬戸内海をみて、「日本にも大きな川があるじゃないか」と語った話もあるようです。この話は、どうやら冒頭のデ・レーケのフレーズをもじったジョークのようですが、真偽のほどをご存じであれば、あわせてご教示ください。

高松港湾・空港整備事務所長

廣松 新



7月20日（祝）、海の日イベントの一環として毎年行っている海面清掃船兼油回収船「美讚」の一般公開を、高松港内のサンポート地区にて開催しました。

当日は、高松市内の気温が30度を越える真夏日の中、普段は見ることが少ない海面清掃船の公開とあって公開開始と同時に多数の方に見学に訪れて頂き、一般公開中は300名を越える来場者で賑わいました。

今回も船員の制服による撮影会は好評で、制服を着ての撮影や家族で港クイズに参加頂き、港の役割や美讚の活動内容等について理解を深めて頂くことが出来ました。



▲美讚



▲船長服を着て記念撮影

【美讚概要】

1. 船種	海面清掃兼油回収船
2. 船型	双胴型
3. 全長	33.50m
4. 全幅	11.60m
5. 深さ（型）	4.20m
6. 最大喫水	2.64m
7. 総トン数	196トン
8. 最大速力	約14ノット
9. 機関出力	736kw(1000PS)×2基
10. 推進器	4翼可変ピッチプロペラ×2基
11. 回収油タンク	41.3m³ (20.65m³×2基)
12. ゴミコンテナ	50m³ (12.5m³×4個)

（企画調整課 川中）



また、当日の来場者の内約7割の方が、たまたま目に入り来場し初めて美讚のことを知ったとのこと、「海のゴミをこのような船で回収していること自体知らなかった。もっとPRするべし！」とのお声も頂きました。美讚のPRの場として有意義な一般公開となりました。



▲パネル展示見学の様子



▲船内（ゴミ回収コンテナ）見学の様子

出前講座開催 ～港の役割について～

高松市立牟礼南小学校
&
坂出市立加茂小学校

9月15日（火）高松市立牟礼南小学校5年生を対象に、高松港にて実際の港湾施設や船舶の見学を行うことにより、港の役割や「海ゴミ」の現状について理解を深めていただくことを目的とした出前講座を開催しました。

また、9月18日（金）は坂出市立加茂小学校5年生を対象に、サンポート高松のeとびあかがわにて同じく出前講座を開催しました。



▶ 質問する加茂小学校の皆さん



▲「美讚」船内を見学する牟礼南小学校の皆さん



当日は、両校とも、約40人の児童が、普段何気なく利用している港や海岸の施設や普段見る機会が少ない「美讚」の役割について熱心に話を聞くとともに、担当者に興味を持ったことなど活発に質問があり、港や海の環境保全についてしっかりと学んでいただくことが出来ました。

（企画調整課 山崎）



備讃瀬戸北航路浚渫工事



▲ポンプ浚渫状況



▲朝日地区への揚土状況



▲工事用ブイ設置状況

平成27年度の浚渫工事始まる



備讃瀬戸北航路（水深19m）の浚渫工事は開発保全航路内における浅所の解消のため、平成25年度から行っています。

今年も、台風が史上最速ペースで発生していて、「44年ぶりの当たり年になる」と専門家の指摘もあるようです。

浚渫工事において8月24～25日、襲来の台風15号の影響覚めやらぬ中、現場では台風18号接近に伴う対応に慌ただしく追われました。

特に今年も、潮汐の関係もありシルバークリック明けの9月25日を、海上工事の実施期限とした厳しい工程管理の下、関係者一丸となって日夜奮闘し、安全に十分注意し工事を行いました。

（航路管理課 岡本）

朝日地区航路浚渫工事



▲ 軟衝撃グラブによる浚渫(全景)



▲ 軟衝撃グラブ (2)



▲ 軟衝撃グラブ (1)

当事務所では高松港朝日地区において航路（水深12m）の浚渫を7月から9月にかけて行っています。今回、工事で使用している軟衝撃グラブの紹介をさせていただきます。

この海域の海底の表面には事前の調査結果から、多くの磁気異常物があることが分かっています。よって、磁気異常物の反応があることは戦時中に投下された爆発物の可能性も有り、安全かつ効率的に磁気異常物を揚収する必要があります。そこで、軟衝撃グラブ（写真参照）という特殊なグラブを用いています。

軟衝撃グラブの特徴は、字のとおり衝撃が軟（やわ）らかいと書くように、グラブに内蔵されている油圧機器の作動油圧力によりグラブの刃先力を4トン以下に制御することにより、万が一、爆発物を掴んでも安全な構造になっています。この軟衝撃グラブを用いて浚渫を実施しています。

（保全課 秋山）



イベント情報
歩天UTAZU ～秋の大収穫祭～
in みなとオアシス うたづumiホテル



【日時】11月21日(土)～11月22日(日) 10:00～16:00
 【場所】香川県宇多津町 イオンタウン宇多津から臨海公園までの町道およびその周辺
 【内容】新鮮な野菜、畜産物、水産物などの秋の味覚や、県内外の特産品がずらりと並び、22日は「働く車展示コーナー」開催予定。
 【問い合わせ先】
 宇多津町役場まちづくり課
 TEL: 0877-49-8009

5万トン級岸壁(サンポート高松) 入出港予定

独立行政法人 航海訓練所
 練習船「大成丸」 3,990トン
 入港 11月12日(木) 11時00分
 出港 11月16日(月) 14時00分

独立行政法人 航海訓練所
 練習船「海玉丸」 2,556トン
 入港 11月28日(土) 11時00分
 出港 12月2日(水) 14時00分

【※ご注意下さい】
 船の入出港時には、綱取用の鉄もやい鏡が放たれる等、大変危険且つ作業の支障となりますので、岸壁付近には近づかないようお願い致します。また、入出港日、時刻はあくまで予定で、前後又は変更する場合があります。

インターンシップを終えて

平成27年8月17日からの2週間、2名の学生さんが高松空港・港湾整備局事務所で職業体験されました。

高知大学農学部 佐古飛翔です。私は国家公務員の仕事内容や職場の雰囲気を知りたいと考え、受け入れをお願いしました。今回は様々な事業の中から高松港朝日地区航路浚渫工事という事業の現地見学をさせて頂きました。現地では浚渫工事を行っている様子を観たり耐震岸壁という構造物の説明を聴いたりと非常に有意義な体験をさせて頂きました。またどちらの事業も私たちの生活を支え、豊かにする事を理解しました。

香川大学工学部の山本崇博です。今回の2週間、日頃の授業などでは知らない出来ない多くのことを学ばせて頂きました。特に普段関わりのないと思っていた国家公務員という仕事が、自分たちの生活の中で生活基盤として重要であるということがよくわかり、公務員という仕事の大変さを知ることができたいい機会となりました。最後になりますが、お忙しい中様々な業務内容の説明や実際に現在行っている現場の見学等の貴重な体験を与えて下さったみなさん、本当にありがとうございました。



実習生報告会



現場見学の様子

港湾業務艇「さんせと」登場

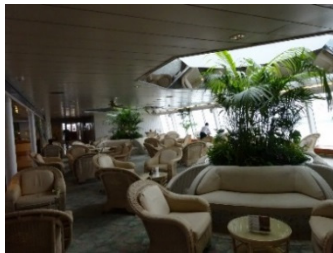
本事務所で長年慣れ親しんだ港湾業務艇「せとがぜ」に替わり、4月から「くるしま」が就航しているところですが、今年度予定されている定期修理に合わせて船名を変更することになり、新たな船名は、讃岐の「さん」と瀬戸内海の「せと」から、「さんせと」としました。



港湾業務艇「さんせと」



▲セレモニーの様子



▲船内のオープンフロアラウンジ



▲スカイデッキのシーホースプール

「飛鳥II」船内見学レポート

8月13日高松港寄港中のクルーズ船「飛鳥II」の船内を見学させていただきました。歓迎セレモニーでは、船長より「高松の花火は乗客だけでなく乗組員からも支持が高く、今年も観覧が実現しました。」とのこと、言葉もあり、乗客、乗組員ともに楽しみにされている様子が伝わってきました。

「飛鳥II」の船内は、さすが日本最大の豪華客船と思わせる豪華さと洗練された施設の数々に、そこが海上の上であることを忘れるほどでした。ショーやシアター、プールなど、充実した施設一つひとつに目を奪われました。また、大浴場、グランドスパや和室もあり、日本船ならではの心配りが随所に感じられました。乗客は日中は金比羅宮参拝や小豆島観光等のオプションを、夜は第50回をむかえる高松まつり花火大会を絶好のスポットである船上より楽しまれ、特別な休暇を過ごされていました。

(総務課 木下)

●高松港湾・空港整備事務所
 〒760-0011
 高松市浜ノ町72番9号
 TEL087-851-5522
 FAX087-826-1210

●坂出港分室
 〒762-0002
 坂出市入船町1-5-26
 TEL0877-46-0311
 FAX0877-45-4689



国土交通省・四国地方整備局
高松港湾・空港整備事務所

【ホームページアドレス】

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/takamatsu/>

お気軽にアクセスしてください♪
 皆さんからののお便りもお待ちしています。

『海とみなとの相談窓口』全国共通フリーダイヤル

おーいによくなれみなと
0120-497-370

受付時間*：9:30～12:00と13:00～17:00
 (土・日・祝祭日・年末年始を除く) *一部の地域を除きます。